

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 4年 3月 14日

事業所名

ILO★

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8		利用人数が多い時には、仕切りをして着替え等の支援を行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	8			
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		部屋の壁色を変え、プレイルーム、静養室等を分けています。また、床にジョイントマットを敷き、安全面に配慮しています。	部屋との境は段差はありませんが、トイレや玄関等はバリアフリー化がなされていないため、今後工夫していきたいと思えます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8		毎日の清掃や換気、手指消毒をシーン毎に行っています。また、部屋の壁色を変え子どもたちにも分かりやすい工夫をしています。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8			
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8		ホームページにて公開しております。	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		外部研修は、研修内容や職員の経験等に合わせて平等に受講する機会を設けている。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8			
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	8			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	8			
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		活動内容が固定化しないよう、1週間の活動予定表を活用しながら常勤職員にて立案している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	8			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		毎朝の職員朝礼を通して行っています。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8		翌日の職員朝礼にて行っていますが、急を要する際にはその都度共有しています。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8			
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8			
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		8		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		8		現在該当児童なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		8		現在該当児童なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8			
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	8			
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	8		会議の参加や、保護者より発達検査結果報告書等で確認、全職員で共有をしています。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		8		今期もコロナウィルスが収束していませんため交流する機会がありませんでした。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		8		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		送迎時に伝えたり、日々の活動内容や様子を連絡帳を活用して伝えあっています。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		8			
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		契約時に説明を行い、運営規定、重要事項説明書等を事業所の見えやすい箇所に設置しております。		
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8				

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8		送迎時や、電話やメール等を用いて、必要に応じて行っています。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		8		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		できるかぎり迅速に対応できるように努めています。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4	4	定期的な発行はないが、事前に文書を発行、または、連絡帳やメール等にてお知らせしています。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8		話せない児童に対し、手話やカード等を活用しています。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	2	散歩や事業所行事(ハロウィン)にて近隣事業所と交流を行いました。	今期もコロナウイルスが収束していないため交流する機会がほとんどありませんでした。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	8			緊急時、防犯、感染症マニュアル等は策定し、事業所内の見えやすい箇所に設置しています。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		災害避難訓練は、年に2回実施しています。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8		契約時のフェイスシートにて服薬状況を確認しています。また、てんかんの有無も確認しています。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		8		現在該当児童はいませんが、今後該当児童の利用があれば行っていきたいと思えます。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	8			現在該当児童はいませんが、今後該当児童の利用があれば行っていきたいと思えます。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。